

A black and white photograph of a street scene at night. A utility pole stands in the foreground, with a large, bright, starburst-like light effect emanating from it. The background shows a building with a sign that reads "いつて" (Ittete) and a white van parked on the left.

この秋、「職場参加ビューロー・世一緒」は、東越谷から千間台西に移転する。法人が7年前に開設した就労継続支援事業所「せんげん台世一緒」という制度の場にいる人々と、新たな二人三脚の旅を企てている。20年前と同様、先はよく見えないが、「社会だなあ」と実感し合える日々をめざして。

入院が長引いたりする経験があるからだ。重度訪問介護を使っていない重度障害者はどうなのかというところで、厚労省に問い合わせた。

厚労省の人と話していて分かったことは、そもそも重度障害者は、重度訪問介護を利用して生活しているという前提に立って制度が考えられているということ、居宅介護だ

の認定やサービス量の決定は市町村が決定するが市町村によってハードルが高いところもある。制度があっても支援者を受け入れない病院も多い。障害者が当たり前に地域で住み続けるために、やらなければならないことが多すぎるのだ。

世に絶たぬ最後の花と道

ツフやこの世一諸で社会
体験から始めた人、企業
就労、離職、再就職した
人たちが30人も集ま
った。お互いにシフトを
組みながら夜店の店番を
し、おしゃべりし、終わ
ってから立ち去りがた
く「一人一言」を全員で
やって家路についた。

まゐります。

◆佐藤多津子さん、ク
月22日におさくなりにな
りました。

◆野島久美子さん、お
(春は部中)普骨を圧迫
骨折。

◆せん中人台夏まつ
りにへしみ。せんげん
台せ一緒出店。
ら
◆武里商店街夏まつ
りに。いた。バタ。ゆわ細

工出店。
◆ 田塔王障、害者自立生
活協会の重慶訪問企證從
信 事、考養成研修が始
まりです。
◆ わらじ、夏合宿、伊豆の